

5.4 分析対象種の確認状況の経年比較

分析対象種の確認状況の経年比較（その1）

凡例 : 確認、× : 未確認、- : 1 ~ 3巡目は河川環境管理システムに調査データが未格納、4巡目は調査未実施

(薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である)
注) 1~3巡目のデータは、種名等について未正確なため

^{注1)} 1~3巡目のデータは、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象にした。
^{注2)} 種本の個体数の算出方法で、1ヘクタールあたりの個体数を対象とした。

^{注2)3} 調査の対象の視点から、経年比較の取りまとめ対象は1級河川の直轄区間とし、指定区間および2級水系は対象外とした。
^{注2)4} 年：平成22～27年度
2.46M：平成22～17年平均

注3) 1～3巡の区分については、原則として1巡目：平成2～3～7年度、2巡目：平成8～12年度、3巡目：平成13～17年度としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡回の区切りは調査実施状況の欄に記した。

分析対象種の確認状況の経年比較（その2）

凡例 : 確認、×:未確認、-:1~3巡目は河川環境管理システムに調査データが未格納、4巡目は調査未実施

(薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川)

注1) 1~3巡目のデータは、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象にし

調査の継続性の観点から、経年比較の取りまとめ対象は1級河川の直轄区間とし、指定区間および2級水系は対象外とすることとした。

注3) 1~3巡の区分については、原則として1巡目:平成2~3~7年度、2巡目:平成8~12年度、3巡目:平成13~17年度としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施状況の欄に記した。

分析対象種の確認状況の経年比較（その3）

凡例 : 確認、× : 未確認、- : 1 ~ 3 巡目は河川環境管理システムに調査データが未格納、4 巡目は調査未実施

(薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である)
注) 1. 3河川のデータは、種名等について未正確化され

^{注1)} 1~3巡目のデータは、網走の生物に対する網走か
^{注2)} 種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象にした。

注2) 調査の観点から、年々比較的の取りまとめ対象は1級河川の直轄区間とし、指定区間における2級水系は対象外とした。注3) 1.~3.の区分においては、原則として、平成2.~2.年度(平成2.~2.年度)。

(注3) 1～3巡の区分については、原則として1巡目：平成2～3～7年度、2巡目：平成8～12年度、3巡目：平成13～17年度としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡回の区切りは調査実施状況の欄に記した。

分析対象種の確認状況の経年比較（その4）

凡例 : 確認、×: 未確認、-: 1~3巡目は河川環境管理システムに調査データが未格納、4巡目は調査未実施

(薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川で
△：確認、×：未確認、-：△や×の総合は河川壞)

注1) 1~3巡目のデータは、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象にした

注2) 調査の継続性の観点から、経年比較の取りまとめ対象は1級河川の直轄区間とし、指定区間および2級水系は対象外とした。

注3) 1～3巡の区分については、原則として1巡目：平成2・3～7年度、2巡目：平成8～12年度、3巡目：平成13～17年度としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施状況の欄に記した。